

胸部 X 線読影に役立つ 気管支走行の覚え方



長尾大志 著 (島根大学医学部附属病院 病院医学教育センター センター長/准教授)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

ブロンコ体操とは ————— p2

ブロンコ体操実践 ————— p4

肺の区域とシルエットサイン ————— p14

シルエットサインで病変の存在する肺区域がわかる — p16

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツ
を制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

ブロンコ体操とは

胸部X線写真を読影するにあたって、初学者の先生方がつまづくポイントとしては、画像を実際の病変部位に再構築していくところが挙げられると思います。

胸部X線写真が平面・2次元である一方、実際の身体(肺)は3次元構造です(写真1・2, 表1)。私たちも自分が胸部X線写真を読影する技術を習得する際にそこは大変苦労したのですが、立場が替わって若い先生や学生さんに教え始めると、やはり同じようなところで皆さんがつまづくということに気づきました。この3次元構造をどうやって理解してもらおうかが、教える側としての課題になったわけです。

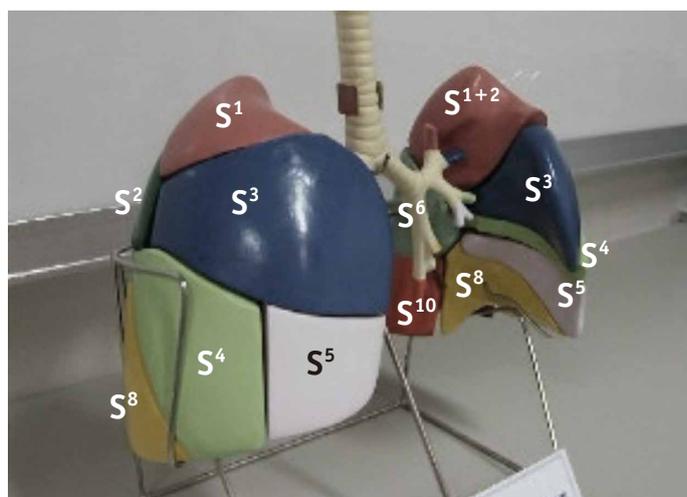


写真1 右斜め前から見た肺区域

表1 肺区域

右上葉 肺尖区 (S ¹) 後上葉区 (S ²) 前上葉区 (S ³)	左上葉 肺尖後区 (S ¹⁺²) 前上葉区 (S ³)
右中葉 外側中葉区 (S ⁴) 内側中葉区 (S ⁵)	上舌区 (S ⁴) 下舌区 (S ⁵)
右下葉 上-下葉区 (S ⁶) 内側肺底区 (S ⁷) 前肺底区 (S ⁸) 外側肺底区 (S ⁹) 後肺底区 (S ¹⁰)	左下葉 上-下葉区 (S ⁶) 前肺底区 (S ⁸) 外側肺底区 (S ⁹) 後肺底区 (S ¹⁰)

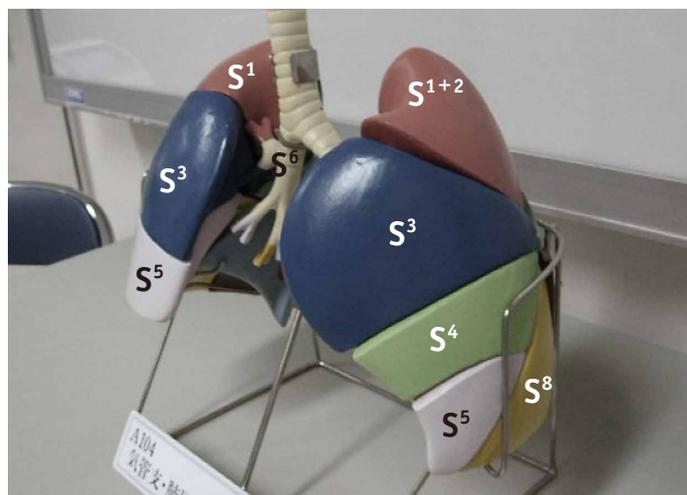


写真2 左斜め前から見た肺区域

本の写真やイラストを見ても、本は2次元ですから、3次元構造である肺を3次元のまま表現するというわけにはいかず、ある方向から見た図、たとえば2方向から見た図が掲載されることになるでしょう(図1)¹⁾。

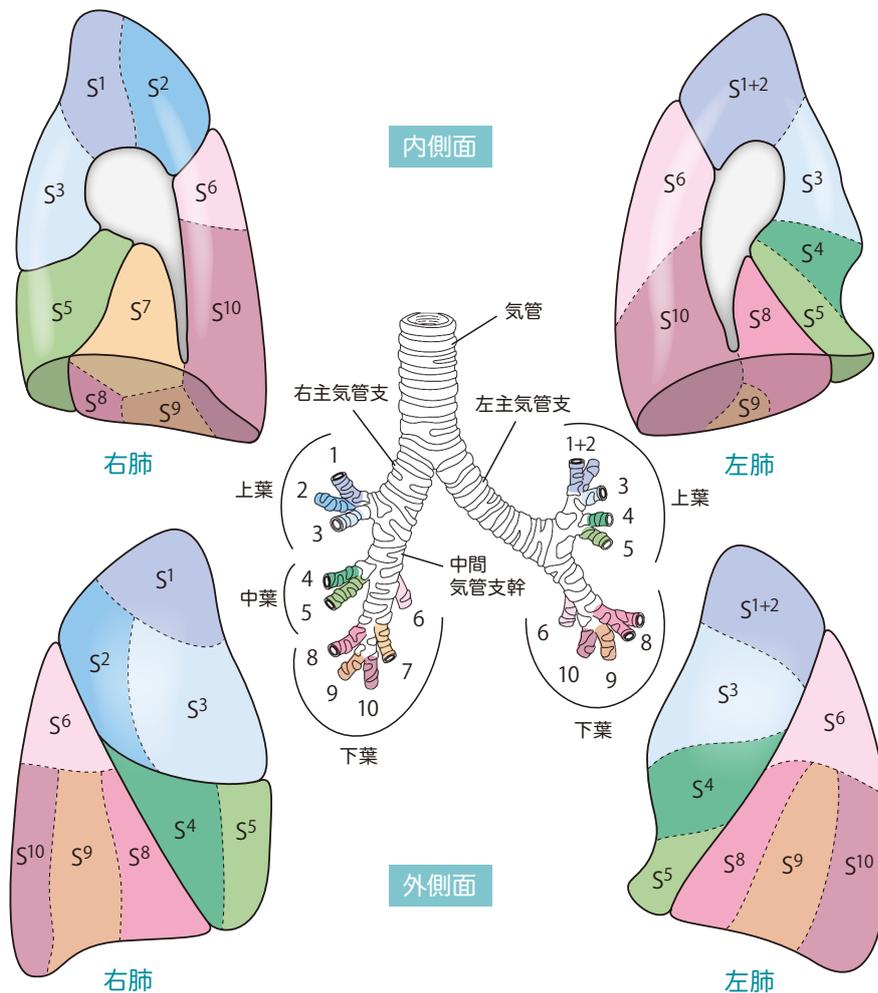


図1 肺の区域を覚えよう

(文献1より転載)

しかし、それだとしても3次元のニュアンスが伝わりにくい、ということで気管支体操というものが考案されました。『これを知れば呼吸器の診断が楽になる』(周東 寛)²⁾が原点のようです。それを滋賀医科大学の先生が取り入れて「ブロンコ体操」として実践されていたものを私も使わせていただき、実際に学生さんや研修医の先生方とやってみたところ、体(実際には腕)を動かすことによって、気管支の3次元的な位置関係や方向がよく理解してもらえることができました³⁾。

ブロンコ体操実践

さてこのブロンコ体操，やるにあたってはご自身が気管支になりきっていただく必要があります。「頭～頸が気管， 左右の上腕が左右の主気管支である」と思い込んで下さい (**写真3**)。

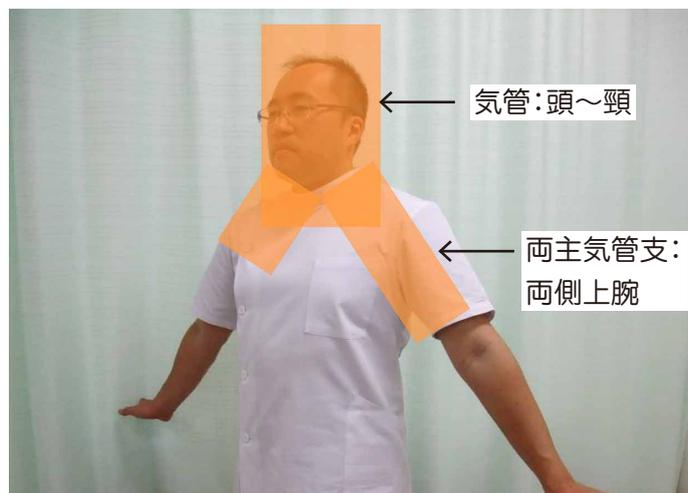


写真3 頭～頸が気管， 左右の上腕が左右の主気管支であると思い込んで下さい

S¹は上に向かいます。前腕をまっすぐ上に上げましょう (**写真4～6**)。



写真4 S¹

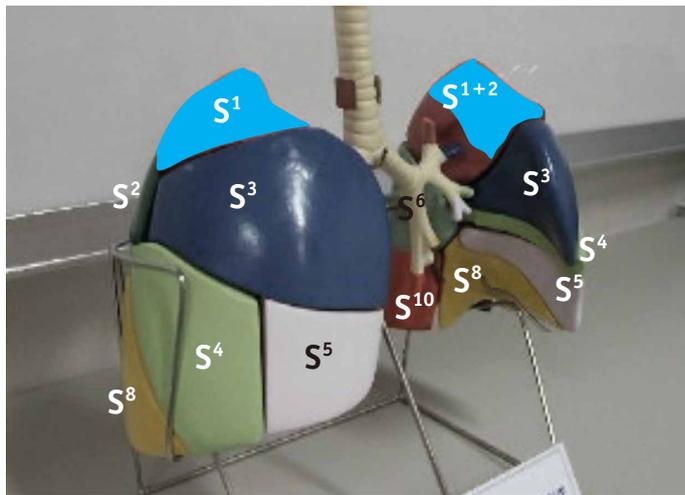


写真5 S¹ 右斜め前から

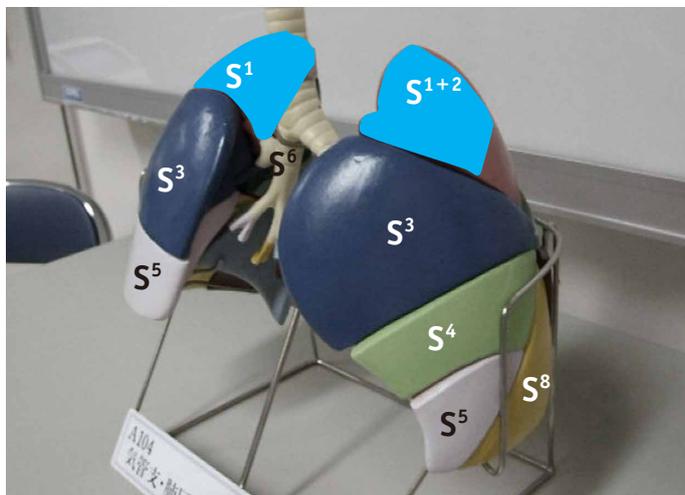


写真6 S¹ 左斜め前から

S²は後ろですので、前腕を後ろへ折り曲げます(写真7~9)。



写真7 S²